

国語科学習指導案

学 級：3 年 2 組 2 9 人
場 所：3 年 2 組 教室
指導者：教諭 川上 嘉一

1 単元名 課題をもって書こう（「詩の魅力を伝えよう」）

2 単元について

(1) 教材観

近年、インターネット等でのトラブル増加が問題になって久しい。顔の見えない相手とのメール等での短い文章でのやり取りの中で、相手の気持ちを考えられず、自分の気持ちも的確に表現することができず、トラブルに発展してしまうケースも見られる。そこで、グループでの学習に取り組むことで、他者と交流し、共同で学び合う態度を養いたい。また、いろいろな考えに触れることで、より良く詩を味わおうとする心情も育てられると考える。【内容的意義】

本単元では、各自で選んだ詩の魅力を他者に伝えるために、どのような情報を、どのような順番で書けばいいのかをグループ活動を通して意見を交流させながら考えさせ、ひとまとまりの推薦文を書かせたい。次に、書いた文章を相互評価することで客観的に見直すことができる力と、各自の表現に生かす工夫ができる力を身に付けさせるのに十分である。【言語能力的意義】

「書くこと」の学習の系列において本教材は、課題を決定し、情報を収集しながら自分の考えを深め、適切な構成を工夫しながら、記述する力を身に付けさせることを主なねらいとする。次の教材「主張文を書こう」等でこれらの能力を活用させるとともに語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して推敲する力を身に付けさせたい。さらに、3学期の「大切な言葉で編む」において文章の構成や情報の活用の仕方等について交流する場を設けることで、「書くこと」の力を確かなものとするよう位置づけられている。

【連関的意義】

(2) 生徒観

本学級の生徒は、全体での発表は控えめな生徒が多いが、与えられた課題にまじめに取り組むことができ、しっかりした態度で授業に臨んでいる。しかし、集団の中で自分の考えを表すことに苦手意識をもつ生徒が多い。また、「書くこと」に苦手意識を持っている生徒も多いので、自分の考え・意見を書く活動を取り入れて、思考力と表現力を合わせながら高めていきたいと考えている。個人の力だけでは、十分に活動することができない生徒もいるため、他者との交流を通して学習を展開し、推薦文を書く際の構成・表現の工夫に気付かせる活動に取り組みたい。

(3) 指導観

指導に当たっては、選んだ詩の中の語句や表現に着目させて、その詩を選んだ理由につながる内容や情報を整理させたい。また、個々だけでなく、他者との比較や交流を通して、自己や他者の多様な表現に気付かせ、推薦文を書くための情報の活用の仕方や、文章の構成の工夫に生かす姿勢を身に付けさせたい。

3 単元の指導目標

- 各自で取材した考えをグループでの交流を通して深め、適切な構成を工夫させる。（「書くこと」ア構成）
- 書いた文章を読み合う活動を通して、各自の表現に還元させる。（「書くこと」エ交流）

4 単元の指導計画

- 単元を貫く言語活動
選んだ詩の魅力を他者へ伝えるために、必要な情報を集め整理し、文章構成を考え、推薦する文章を書く。
（関連：「書くこと」言語活動例ア）

過程	時	指導の流れ	言語活動 (☆)・ICT活用 (◎) の工夫
課題設定	1	<ul style="list-style-type: none"> 詩の魅力を探るために、グループで感想等を交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【単元の学習課題】 自分の選んだ詩の魅力伝えるために構成を工夫して推薦文を書こう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの詩の魅力を話し合わせる。 選んだ詩について、言葉の魅力が付箋紙に書き込んで整理させる。 <p>☆ 単元を貫く言語活動に基づいた学習課題を設定する。</p>
取材	2	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ詩の推薦文を書くために必要な情報を考え、集める。 	<ul style="list-style-type: none"> 推薦文に必要な情報を付箋紙に記入する。 <p>☆ 選んだ詩の魅力について記入した付箋紙を並べ、構成を工夫させる。</p>
構成	3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 推薦文を書くために準備した情報と、その情報をどのような意図で絞り込み、構成を考えたかを、代表グループに発表させる。 代表グループの発表を聞き、気付いたことや質問等を交換する。 構成を決定する。 	<p>◎ 書画カメラや手書きソフトを使い、視覚的な発表に取り組みさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な意見を聞き、各自の表現に役立たせる。
記述推敲	4	<ul style="list-style-type: none"> 魅力を伝える文章を書き、一枚の推薦文に仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一枚の付箋紙につき一段落程度の分量で文章に直す。
交流	5	<ul style="list-style-type: none"> 他の推薦文を読み合い、相互評価を行う。 学習を振り返り、自己評価を行う。 	<p>☆ 各自の推薦文を読み合い、意見を交換し、コメントカードに気付いた点を記入させる。</p>

5 本時の実際 (3/5)

(1) 題材名 「詩の魅力伝えよう」

(2) 学習目標

- 推薦文を書くための構成について考えることができる。
- 他者の意見を聞いて、自分の表現に生かすことができる。

(3) 研究仮説に沿った授業設計の視点

視点ア デジタルコンテンツを活用し、視覚的に捉えさせることにより、生徒の興味関心を高める。

(◎: ICT活用)

視点イ 他者の意見を聞いて、考えを深め、自分の考えを説明する場面を設定する。(☆: 言語活動)

視点ウ デジタルコンテンツを活用した発表の場を設定する。(◎: ICT活用)

(4) 評価規準と生徒の姿

観点	評価規準	生徒の姿
関心・意欲・態度	書いた文章を互いに読み合って、情報の活用の仕方や文章の構成を評価し合い、自分の文章に生かそうとしている。	他者の意見を聞き、自分の表現に生かすことができる。
話す・聞く		
書く	<p>書く目的に沿って集めた情報について、さまざまな視点や立場から検討して、考えを深めている。</p> <p>他者との交流を通して、集めた情報の中から何をとりあげ、どのように書くかを考えている。</p>	<p>推薦文を書くための情報を、付箋紙に記入し、絞り込みや並べ替えを行い文章構成を考え、工夫することができる。</p> <p>他者との交流を通して、詩の魅力伝えるため、表現の工夫に生かすことができる。</p>

観点	評価規準	生徒の姿
読む		
言語についての知識・理解・技能	選んだ詩の中の語句や表現について、その意味の微妙な違いを説明している。	自分の選んだ詩の語句や表現について、魅力を説明することができる。

(5) 授業の展開

(☆：言語活動, ◎：ICT活用)

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
導入	8分	一斉	1 前時までの学習を振り返る。 2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 詩の魅力を伝える推薦文を書くために必要な情報をまとめ、文章構成を考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の活動について再確認させる。 黒板に掲示する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">視点ア</div> ◎ 書画カメラを活用し、前時までの授業を振り返る。
展開	15分	グループ	3 各グループで、前時の活動の確認を行う。 4 詩の魅力を他者に伝えるために有効な文章構成について考え、情報の取捨選択、並べ替えを行う。 (反応例) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> どの情報を選んだら、他の人に魅力が伝わるだろうか。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 詩の魅力を伝えるには、どんな順番で並べたら良いのだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 推薦文に必要な情報がまとめられているか確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">必要な情報をしぼりこめましたか。</div> 詩の魅力を伝えるためには、どんな順番で情報を出していくと良いのか考えてみましょう。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">視点イ</div> ☆ 交流を通して他者の価値観に触れることで、自分の考えを深めさせる。
	10分 10分	一斉 個	5 2グループを代表として選び、発表を行う。 6 代表グループの発表を聞き、どちらの発表に説得力を感じたか確認する。 (反応例) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> この情報があったので、□班の方が良かった。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 情報の並べ方に工夫を感じて、説得力があると思った。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 多様な考え方にふれさせる。 発表する側も、聞く側も、他の人の意見を聞くことにより、気付かなかった新たな発見があるかもしれませんね。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">視点ウ</div> ◎ 書画カメラや手書きソフトを活用させ、発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">視点イ</div> ☆ 交流を通して他者の価値観に触れることで、自分の考えを深めさせる。
終末	7分	グループ 一斉	7 魅力を伝える推薦文とするための、文章構成の工夫について、各グループで確認を行う。 (反応例) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 代表グループの発表を聞いて、構成を変えることにした。 </div> 8 学習を振り返る。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 詩の魅力を伝えるための推薦文を書くという目標をしっかりとって、もう一度、各グループで、構成について考えてみましょう。 </div>	

(6) 検証の方法

- 視点ア デジタルコンテンツ活用時の生徒の様子，話し合いへの参加の様子などを観察する。
付箋紙への記入，課題への取組，態度を観察する。
- 視点イ グループによる交流の様子を観察する。
文章構成について考えをまとめることができたか観察する。
- 視点ウ デジタルコンテンツを発表に生かしているか観察する。